

外国語科（英語）

- 事例 1 言語活動を通して主体的に学ぶ姿勢を育む授業実践
..... p. 44
- 事例 2 他者との対話を通して、自己表現力を高める授業実践
..... p. 50
- 事例 3 自身の経験に基づいて思考し表現させる授業実践
..... p. 60

研究協力校

栃木県立黒磯高等学校（外国語科）

教諭	高田	勝廣
教諭	稲本	綾
教諭	鈴木	翔
教諭	須藤	亜希子
教諭	早川	智子

研究委員

栃木県総合教育センター

研修部 指導主事 福井 智之

○ 外国語科における「これから求められる授業」

平成30年3月に、公示された高等学校学習指導要領における改訂では、「何ができるようになるのか」という観点でその内容が整理された。「知識・技能の習得」だけではなく、その知識・技能をいかに活用しながら社会と関わるか、という力の育成が求められている。さらに、2020年度から小学校3、4年生で外国語活動、5、6年生で外国語科が全面実施となる。つまり、小学校を出発点とした小・中・高の新しい外国語教育が始まる。

グローバル時代を迎えて、今、英語科教員に求められることは、単なる英語力の育成のみならず、コミュニケーション能力を育成することである。そこで、外国語教育では、小・中・高等学校が一貫してコミュニケーションの目的や場面を明確にすることが重要となる。音読、文法解説、文法演習を繰り返すだけの授業では、生徒のコミュニケーション能力が育つことはない。今後、高等学校の英語科教員が注視すべきことは、小学校中学年での「外国語活動」で英語に慣れ親しみ、小学校高学年の「外国語科」から中学校で言語活動を十分に経験してきた生徒たちが高等学校へ進学してくるということであろう。言い換えれば、小・中・高等学校の接続を意識した指導が必要ということだ。

今回の学習指導要領改訂で、外国語科における大きな変化の一つは、4技能が「5領域」となったことである。「話すこと」が「話すこと [やり取り]」と「話すこと [発表]」の二つに細分化された。つまり、「話すこと」がこれまで以上に重要視されることになった。実際に生徒自身が授業時の言語活動を通して英語力とコミュニケーション能力をつけていくことが期待される。生徒に英語の使用場面をいかに多く与えられるかという観点での授業改善が求められている。言語活動を反復練習としている実践例を見ることがあるが、そうではなく、実際のコミュニケーションの場面を設定し、生徒が英語を使って活動できるような授業計画が望まれる。最終的には、主体的・対話的で深い学びを意識した授業の中で、即興でやり取りをする力が育まれるべきものであることを忘れないようにしたい。

このような国の動向を踏まえながら、本調査研究を進めるに当たって、高等学校の授業を振り返り、普段の授業の課題についての検討を行った。

本冊子では、「外国語科における主体的・対話的で深い学びの実現」のために取り組んだ、授業改善の三つの実践事例を紹介している。

事例1では、第1学年の「コミュニケーション英語Ⅰ」において、「Landfill Harmonic」（総時間数10時間）を題材として扱い、言語活動を通して主体的に学ぶ姿勢の向上を目指した。

事例2では、第2学年の「コミュニケーション英語Ⅱ」における単元「Chanel's Style」（総時間数9時間）を取り上げ、読み取った情報を他者に伝える表現活動を工夫することで、題材の内容をより深く理解することを目指した。

事例3では、第3学年の「コミュニケーション英語Ⅲ」において、「Political Correctness」（総時間数10時間）を題材とし、教科書の題材を身近な事柄に置き換え、自身の経験を踏まえた思考をすることで、「深い学びの実現」につながることを目指した。

これらの事例を、今後の授業改善における参考にしていきたい。

事例 1 言語活動を通して主体的に学ぶ姿勢を育む授業実践	
単元名	Lesson4 Landfill Harmonic
これまでの課題	<ul style="list-style-type: none"> 本文を見ずに教科書の内容を再現したり（リテリング）、自分の考えを伝えたりすることは、単調なやりとりになる傾向がある。 書くことに対して苦手意識があり、一度インプットした内容をアウトプットとして文で表現することができない傾向がある。
授業改善のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に話すことの基礎として、まず身近な物や既習の単語、教科書に関連する語を用いて、英語で相手に伝えられるようにする力をつけさせる。 既習事項をパラフレーズする力がつくように授業展開を考える。その際のスモールステップとして、まず、題材の内容を絵や写真を利用して表現させる。活動を進める中で、絵や写真の枚数を段階的に減らすことで活動に負荷をかけ、最終的には何も見ずに題材の内容を再現できるところまで繰り返させる。 この活動後、書くことに対する苦手意識をなくすために、自分で表現した英文を文字に起こすことで、英文を書く機会を多く設ける。その後、教科書に関連する事柄に対して、自分の考えを書く時間を設定する。これで、題材内容の理解をより深めさせることができる。

1 指導観

(1) 本単元について

本単元では、ごみをリサイクルして作った楽器を演奏する、パラグアイの「リサイクル・オーケストラ」の活動について知り、現代の環境問題について考えるところまでもっていく。同年代の子どもたちの活動を通して、自分たち自身を見つめ直し、今できることは何かを考えさせる。また、グローバルな視点で世界中で起こっている諸問題について認識させ、そのための解決策を考えさせる。

(2) 生徒の実態

英語が好きと感じている生徒(1学年)が多い。そのため、音読においても、声が大きく、楽しんで取り組んでいる。ペアワークやグループワークに前向きに取り組む生徒が多い。反面、英語を苦手と考えている生徒も半数以上おり、こういった生徒の二面性を踏まえて、指導していくことが大切である。

質問項目	肯定的	否定的
Q1あなたは英語が好きですか。	69.5%	30.5%
Q2あなたは英語が得意ですか。	42.5%	57.5%
Q3あなたは次のどのようなことが好きですか。		
聞くこと	67.5%	32.5%
話すこと	51.5%	48.5%
読むこと	57.5%	42.5%
書くこと	52.5%	47.5%

(3) 生徒に身に付けさせる力

題材の表面的な内容理解に留まることなく、理解した内容の本質を考える時間をとり、考えたことや感じたことを自分の言葉で表現する力を身に付けさせたい。その時間をただ設定するだけでなく、生徒たちにいかに題材への興味をもたせるかが重要である。興味をもてないことには、思考することもできない。よって、1年生の段階ではビジュアルを用いて一種のゲーム感覚でリテリング活動を行う。それにより、リテリングを楽しみながら繰り返し、題材の内容理解をしつかりさせる。ここを出発点として、題材関連事項を提示し、内容の本質について思考し、英文に起こす時間を確保し、英語で表現することに対する抵抗感を減らしていきたい。

2 単元の指導計画及び評価計画

○ 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化について の知識・理解
A1 ペアやグループで、音読したり、感想や自分の意見を述べ合ったりする活動に意欲的に取り組もうとしている。	B1 教科書の内容について書いたり、話したりしてリプロデュースすることができる。	C1 カテウラの人たちの状況を共感的に理解することができる。	D1 内容理解に必要な語彙・文法事項を身に付けている。
A2 工夫して、相手に伝えよう、あるいは相手を理解しようとしている。	B2 世界の諸問題について、ペアやグループで自分の意見とその理由を伝え合することができる。	C2 書き手の意図を推測しながら、読んだり聞いたりすることができる。	D2 正しい語順や語法を用いて文章を構成する知識を身に付けている。

○ 単元の指導計画

時	該当箇所	指導内容・方法	評価規準との関わり
1	レッスンの導入 Part 1	話題の導入、語彙の確認、Oral Introduction、本文の内容理解	C2
2	Part 1	前時の復習、音読、本文の内容理解	A1
3	Part 1, Part 2	前時の復習、音読、ストーリーリテリング、語彙の確認、本文の内容理解	C1, C2
4	Part 2	前時の復習、音読、本文の内容理解	A1
5	Part 2, Part 3	前時の復習、音読、ストーリーリテリング、語彙の確認、本文の内容理解	A2
6	Part 3	前時の復習、音読、本文の内容理解	C2
7	Part 3, Part 4 (実践1)	前時の復習、音読、ストーリーリテリング、語彙の確認、本文の内容理解	B1
8	Part4	前時の復習、音読、本文の内容理解	C1
9	Part4	前時の復習、音読、ストーリーリテリング	D1
10	Comprehension, Communication Activity (実践2)	前時の復習、本文の内容確認、世界の諸問題について考える、意見交換	B2, D2

3 実践の様子

実践1

(1) 活動内容

題材を主体的に読ませ、自己表現活動に取り組ませるために、題材の内容を絵で表したハンドアウトを用いて、リテリング活動やリライト活動を行う。

(2) 指導手順

- ① 複数の絵を見て、既習の本文内容を再生する。
- ② 段階的に絵の枚数を減らし、負荷をかけることで、題材の理解を確実にする。
- ③ 更なる知識の定着と、実践2の活動の際に必要な表現の定着を目指して最後にリライト活動を行う。

(3) 生徒の様子

絵を用いたリテリング活動や4コマ漫画の絵を見てペアと話す活動は以前から行っている。そのため、絵を見てペアに伝える活動は抵抗なく取り組んでいる。また、多くの生徒が絵を描写して、相手に伝える活動には興味、関心をもっていることが生徒の活動の様子から分かる。文字に頼らないことで英文を考えることに苦勞している様子は見られるが、粘り強く取り組んでいる。ただし、話したいことがあるにもかかわらず、英語表現の定着が不十分なため話を続けられない生徒も数名見られた。

書く活動に関しては、より苦戦している様子が見て取れる。成績上位の生徒でも、話す活動とは異なり、書くことには正確性が求められるため、その分苦勞している。しかし、振り返りにおいて、書くことの大切さを認識するコメントが多く得られたので、次へのステップの一助となったようである。



図1 (1回目…本文の内容となるように、イラストを描く。これを見て、リテリングを行う)

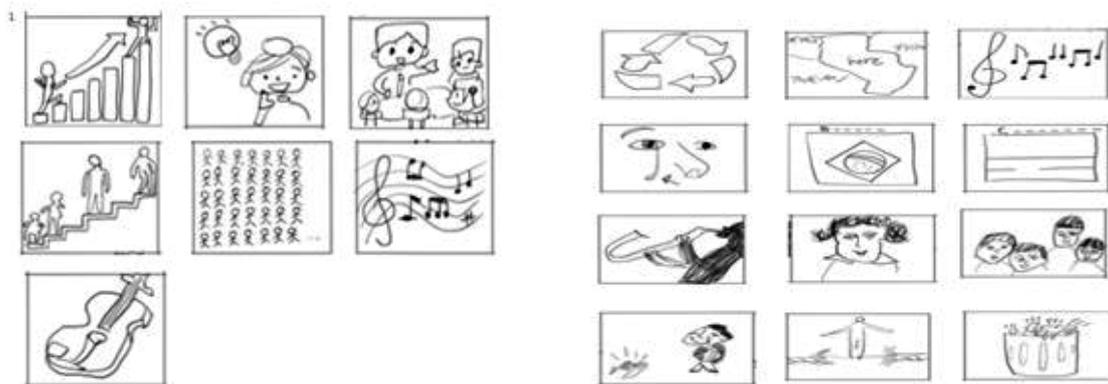


図2 (2回目…1回目より絵の枚数を半分程度に減らして、リテリングを行う。3回目以降も、絵の枚数をさらに半分に減らしていく)



図3 活動の様子

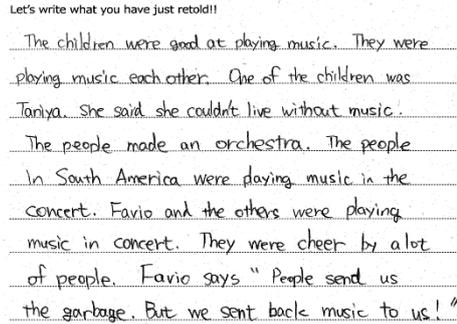


図4 ワークシートの記録

(4) 活動のねらい

実践1は、教科書を通して英語技能の向上を目指し、主体的な学びへつながることを意図した。実践1により、生徒は自己の学習を振り返り、実践2のミニプレゼンテーションにつながるように見通しをもって粘り強く取り組むことができた。文字が書いてあるとその文字をただ読むことになり、結果として英語表現が定着しにくくなるが、絵を用いてリテリングすることで、英語表現を思い浮かべたりつなげたりする必要が生じるため既習事項の定着につながった。さらに、生徒はペアワークを実践することで相手に伝えることができる喜びを実感したようだ。こういった活動を定期的に授業の中に入れ込むことで、生徒が感じている「英語で話すことに対する壁」を低くすることができる考えた。

(5) 実施後の自由アンケート

主な肯定的意見

- ・教科書を深く理解してないとやりとりができないので、やりがいがある。
- ・教科書の表現を覚えられる。
- ・補助となる絵の枚数が減ることでだんだんと難しくなるので、キーワード、キーフレーズを覚えるために音読練習を繰り返すことが必要だ。
- ・書くのはスペリングまでよく覚えてないとできない。(スペリングを意識する)

主な否定的意見

- ・難しい。特に絵を見て書く活動。
- ・絵が少なくなると話せなくなってくる。

実践2

(1) 活動内容

主体的な読解や、相手へ伝えることの発展練習として、ミニプレゼンテーションと称し、発表活動を行った。読み取った内容を基に、「Can we reduce garbage in our daily lives?(どうしたら日常生活でゴミを減らせるのか)」という質問について、個人で意見を書いた。その後、グループに分かれ、ゴミを減らす方法についてインターネット等で調べ、そのことについて分かったことや調べたことを基に独自の減らし方をまとめ、ミニプレゼンテーションとして発表した。

(2) 生徒の様子

ア 調べ学習の様子

グループごとの活動では、どの生徒も与えられた資料をよく読み、各自が興味をもった内容について意見を出し合う様子が見られた。また、本文から読み取った内容や、新たに学習した表現を基にして、与えられた日本語の資料の内容を分かりやすく英語で伝えようと協力する姿も見られた。生徒の主体的な活動を優先し、教師は発表内容や英文などの修正はせず、生徒からの質問以外は生徒同士の活動を見守りながら実態把握に努めるようにした。

イ 発表準備の様子

発表は口頭で行うとともに、各グループは発表用のホワイトボードを用いて、要点のみをまとめた。教科書本文の表現をそのまま真似たものや、平易な表現を用いるグループが多かったが、「相手が分かりやすいように伝える」ことをよく意識して作成していた。

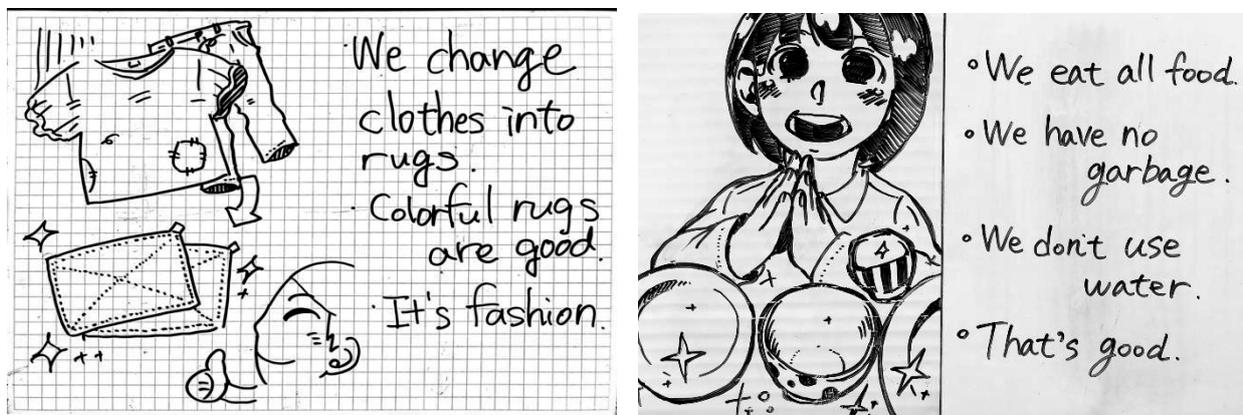


図5 生徒が作成した発表用資料（ホワイトボード）

ウ 発表の様子

生徒はホワイトボード（図5）を用いて発表を行った。発表に際しては、アイコンタクトや声の大きさといった相手に伝えるための姿勢にも注意するよう指導した。発表を通して、自分たちで調べて分かったことを相手に伝えることがねらいであったが、聞き手もよく集中して聞いている様子が見えた。さらに、発表後は自分のワークシートに意見を付け加える生徒もおり、発表を基に自主的に自分の考えをより深めていると感じた。

4 更なる改善に向けて

下の図6は主体的な学びに関する生徒アンケート結果である。なお、表中の「実践」とは本事例の実践を指す。

質問事項	実施	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1 興味や関心を持って学習することができた	実践前	11	19	10	0
	実践後	16	21	3	0
2 見通しを持ちながら学習することができた	実践前	0	10	25	5
	実践後	4	13	20	3
3 言語活動に粘り強く取り組むことができた	実践前	12	23	5	0
	実践後	26	10	4	0
4 自分の学びを振り返り、次につなげることができた	実践前	2	18	13	7
	実践後	21	11	8	0

図6

単位（人）

(1) 成果

質問事項3と4に関しては大きな成果が見て取れる。難しい課題であっても、イラストを使うことで活動への意欲が湧いたため、ペアワークやグループワークに粘り強く取り組むことができたのだろう。また技能の育成にも力を入れ、実践前に反復練習を取り入れたことで知識（表現）が身に付き、自信をもって発言できるようになった。発言することに抵抗がなくなると、発言に必要な英語表現を自ら辞書を用いて調べるなど、主体的に英語に関わるようになった。ここが、大きな成果である。これまでは、教師側が「この単語の意味を辞書で確認しよう」と促さなければ

ば、まず辞書を引くことはなかった。日頃、辞書を机の上に置いていない生徒が、自ら辞書を取り出し、引いている姿を見て、その変化に授業改善の成果を感じた。生徒たちの自発的な辞書活用が見られることで、英語の学習効果が上がることが期待できる。「あ、良い例文が載ってた」という言葉は辞書利用の有効性について生徒が理解したことを示している。リテリング活動を通して、教科書本文をなぞるだけではなく、自分の言葉で表現することの成功体験が生徒の学習意欲につながった。

(2) 課題

グループ発表における指導の在り方に課題がある。ペアワークではある程度の自信をもって生徒たちは活動できているため、伝え方に関してはあまり問題にしておかなかった。しかし、グループでの活動になると聞く側の人数が多いため、緊張や不安で声が小さくなったり、聞く側とのコミュニケーションが不足するようになった。普段の授業でグループワークが少ないのも原因と考えられる。授業中の活動に工夫を加え、複数の聞き手に自分が得た情報を英語で伝達することに慣れさせる必要があると感じた。工夫の第一歩は、既習事項の定着（インプット）を確実なものにする言語活動を繰り返し導入することからであろう。理解できたと生徒が実感できる授業改善を行い生徒に達成感を得て欲しい。この達成感が大きいほど生徒たちが授業時の言語活動に、より主体的に取り組めるようになると考えている。

事例2 他者との対話を通して、自己表現力を高める授業実践

単元名	Lesson 4 Chanel's Style
これまでの課題	これまでの授業では、説明を聞く、与えられた文を読むといった受動的な活動が中心で、生徒が話したり書いたりする表現活動の機会が少なかった。また、生徒自身も自己表現をすることに抵抗を感じている。
授業改善のポイント	他者との対話を通して、意見や情報を交換・共有する機会を多く設け、自己表現する楽しさや意義を感じられる活動を取り入れる。筆者や登場人物など他者の視点から考え、表現する活動を行うことで、内容の理解をより深めることを目指す。

1 指導観

(1) 本単元について

本単元では、20世紀初頭に女性ファッションに新風を巻き起こしたガブリエル・ココ・シャネルについての文章を題材として扱う。時代背景や女性の立場などにも触れながら、シャネルの「自分が欲しいものを作る」という製品づくりにかける情熱や、生涯を通し「革新者」であり続けた彼女の生き方を理解し、自分の生き方について考えさせる。

(2) 生徒の実態

2学年の生徒84名に対し、5月に意識調査を行った。調査によると「英語は必要」「英語は好き」と感じている生徒は75%と多いが、65%の生徒が教科としての「英語」に対し苦手意識をもっている。授業への取り組みは意欲的で、与えられた課題に前向きに取り組むことができる。4技能のうち、「得意・好き」と感じているのは「読むこと」であった。これは、これまでの授業が読解中心であったため、読むことに最も慣れているからであると考えられる。一方、「苦手・嫌い」と感じているのは「話すこと」であった。自由記述欄には「話せるようになりたいが、人前で英語を話すのは苦手」「自分の意見を主張したり発表したりする自信がない」という声が複数あげられており、実際にこれまでの授業では表現活動に消極的であった。

(3) 生徒に身に付けさせる力

教科書本文の意味がわかる、日本語訳ができるという、表面的な内容理解に留まることなく、理解した内容について、考えたことや感じたことを自分の言葉で他者に伝えられる力を身に付けさせたい。また、他者と対話することで、異なる意見を読んだり、聞いたりして考えを広げ、深めることができるようにさせる。他者との対話とは、生徒同士、教員と生徒の間で行うだけではなく、英文を通して、生徒が筆者、登場人物の想いに触れ、疑問を抱いたり共感したりすることも含まれると考える。さらに、他者の立場になって考え、想像し、感じたことを表現する力も身に付けさせたい。そのような力を身に付けることで、読みを深化させることも期待できる。

2 単元の指導計画及び評価計画

○ 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
A ペアやグループで話し合ったり、意見や感想を述べ合ったりする活動に積極的に取り組もうとしている。	B1 本文を読んで、その内容をまとめたり、口頭で伝えたりすることができる。 B2 書き手や登場人物の気持ちになって、ペアやグループで自分の考えを伝え合うことができる。	C 文章の内容から、書き手・話し手の意図を推測し、読みを深めることができる。	D 偉人の生き方から学んだことや感じたことを伝えるための表現を理解している。

○ 単元の指導計画

時	該当箇所	指導内容・方法	評価規準との関わり
1	レッスンの導入	話題の導入	A
	Part 1	新出単語・語彙の確認, Oral Introduction, 本文のアウトライン確認	C
2	Part 1	音読, 本文の内容に関する Q&A, 表現活動	B1
	Part 2	新出単語・語彙の確認, Oral Introduction	A
3	Part 2	音読, 本文の内容に関する Q&A, 表現活動	B1
4	Part 3	新出単語・語彙の確認, Oral Introduction, 本文のアウトライン確認	C
5	Part 3 本時 (実践 1、2)	音読, 本文の内容に関する Q&A, 表現活動	B2
6	Part 4	新出単語・語彙の確認, Oral Introduction, 本文のアウトライン確認	C
7	Part 4 (実践 3)	音読, 本文の内容に関する Q&A	B2
8	まとめ (実践 4)	本課で学んだこと、感じたことを書く	D
9	まとめ	テーマに関する意見交換	A

3 本時の展開 (第5時)

段階	学習活動	活動のねらい	指導上の留意点
導入 5分	Warm-up (5 mins.) Small talk	・生徒が便利だと思ふ身の回りの製品について、意見を交換する。	・発言を促し、全員が授業に関わる雰囲気づくりをする。
展開 40分	Review (5 mins.) ・ Vocabulary & Expressions ・ Reading	・重要表現の確認をする。 ・本文を音読して内容の振り返りを行う。	・正しい発音を意識して読ませる。
	Understanding (10mins.) Read the text and write down the features of Chanel's new products.	・シャネルの製品の特徴をまとめ、ペアで情報を共有する。	・本文の内容が読み取れているか確認する。 ・短い文で、わかりやすく伝える工夫をするよう促す。
	Presentation (25mins.) Promote Chanel's new fashion items.	・グループごとにシャネルの製品を宣伝するプレゼンテーションを行う。	・伝えたい情報を強調し、説得力のある宣伝を工夫するよう促す。

		<ul style="list-style-type: none"> 最も良い宣伝をしたグループに投票する。 ファッション雑誌に掲載する製品の紹介記事を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの発表を聞き、宣伝の工夫や表現方法を学ぶ。 グループの宣伝や、他グループから得た情報を基に、読みたくなるような、わかりやすい紹介文を書かせる。
まとめ 5分	Confirm (5 mins.) Make an article in a fashion magazine		

4 実践の様子

実践1 読み取った情報をまとめ、他者に伝える
『シャネルの三つの製品の特徴をまとめ、伝えよう』

(1) 活動内容

シャネル考案の「女性のパンツルック」、「黒いドレス」、「ショルダーバッグ」が生まれた背景、特徴や世間の反応等をまとめ、その情報をペアで伝え合う。

(2) 生徒の様子

本文を読んで、シャネルの三つの製品の特徴をワークシート（図1）の表にまとめる。本文をそのまま抜き出すのではなく、簡潔な文に書き換えたり順番を工夫したりするなどして、要点を絞ってまとめるように指示をした。生徒たちは重要なフレーズを簡条書きにしたり、平易な語を使って理解しやすい文に書き換えたりするなどの工夫をしていた。イラストや矢印などを使ってまとめる生徒もいて、生徒の思考の様子が見て取れた。

まとめたワークシートを見ながら、ペアで順番に製品を紹介した。ワークシートに書いた短い英語のフレーズや矢印などを、頭の中で英文に変換しながら話さなくてはいけないため、自分の知っている英語で文を補いながら表現活動を行っていた。

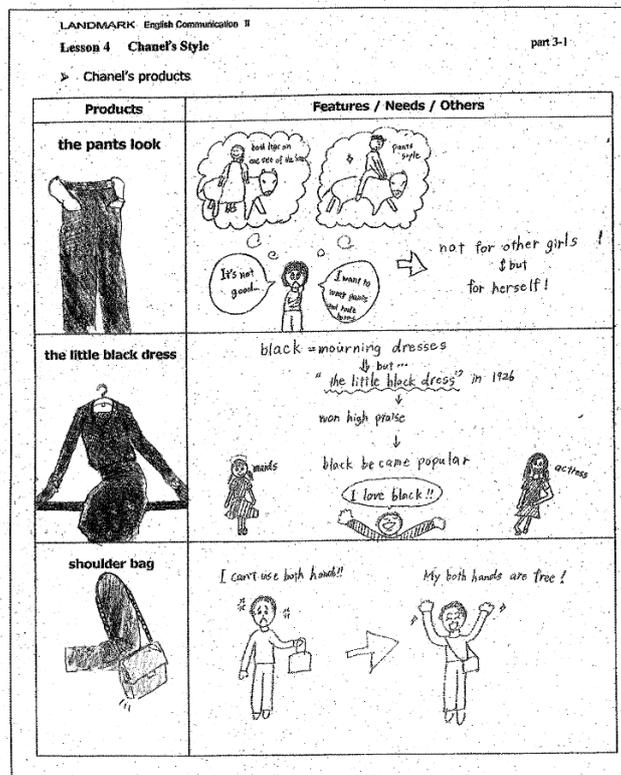


図1 【ワークシート】

実践2 情報を整理して、わかりやすく伝える

『シャネルの製品を宣伝しよう』

(1) 活動内容

4人グループでシャネルの三つの製品の宣伝を考え、1分以内で発表する。発表を聞いた後、最も良い宣伝をしたグループを選出する。まとめの活動として、雑誌に載せる製品の紹介記事を書く。

(2) 生徒の様子

新製品の販売促進を担当する社員であるという設定で、各グループで一つの製品を選び、宣伝する。作り手の気持ちになって製品の特徴やセールスポイントを話し合いながら、10分間で発表準備をする。1分間という限られた時間の中で、何をどのように伝えるべきかを考えなくてはならないため、それぞれがまとめたワークシートの情報を突き合わせながら、工夫して準備している様子が見られた。発表についても、本文の表現を適切に利用しながら、パフォーマンスなども交えて聴衆にアピールをしていた。

発表後は「どのグループから製品を買いたいか」を再度グループで話し合い、最も良い宣伝をしたグループを選んだ。「例がわかりやすい」「これを買えば〇〇できるというメッセージが良かった」の意見が各グループから出ていて、今後の発表の良いヒントにもなったようだった。

まとめの活動として、絵だけのワークシート(図2)を配布し、製品を紹介する雑誌記事を書かせた。既習事項の定着も目的の一つだが、発表の時とは違う文やフレーズを用いたり、使用例やキャッチフレーズなどを掲載したりと、グループごとに工夫をしている様子が見えた。



Hello, everyone. Today, I'd like to introduce pants look. This product is a revolution. Do you want to play basketball wearing a skirt? Do you want to play volleyball wearing a skirt? You are in trouble in this situation. You, you, and you. (pointing audience)

You wear this, you can play all sports. Let's run together wearing pants. You can do your best in the long distance race, Thank you.

本文では乗馬をする際に不便だったために女性のパンツスタイルが生まれたとあるが、話し合いの中で「聞いている人が実際にやったことのあるスポーツのほうが説得力があるのではないか」という意見が生まれ、バレーボールやバスケットボールなどを例に挙げて、聴衆の興味を引く工夫をしていた。

Hi, everyone. Today, I'd like to introduce Chanel's new product, Little Black Dress. This dress was produced in 1928 by Chanel. Before the year, black had been used just for mourning. However, Little black dress won praise in a famous fashion magazine. If you worry about your figure, you must wear this black little dress, because black make you look slender. Don't worry. Black is the best color of all. You should buy this dress!



“Most people have no sense of color. They should ask for suggestion.”というシャネルの発言を受けて、「黒は人を美しく見せるのだから、容姿に自信がないなら黒を身に付けるべきだ」というオリジナルの文(下線部)を加えているところに工夫が見られる。

LANDMARK English Communication II
Lesson 4 Chanel's Style

THE PANTS LOOK !!



¥650,000

PRODUCED BY COCO CHANEL

THE LATEST TREND IS "HORSE GIRL" ♡♡

IN THESE DAYS WOMAN WERE RIDING HORSES WENTING A SEFT.
IT IS DIFFICULT FOR THEM TO MOVE.
HOW!! ITS TIME TO CHANGE THIS STYLE !!! ♡

THIS PANTS WILL ALLOW YOU TO RIDE HORSES AND MOVE EASLY !!

LETS RIDE A HORSE ! ♡♡

LANDMARK English Communication II
Lesson 4 Chanel's Style

Slender...^o

Popular...^o



won high praise

Elegant...^o

BLACKDRESS

is in fashion this year !!

This is made by Chanel. Surprisingly, Black color is not only mourning. Black is the best color of all ! Already, many people wearing it. Such as actresses, high society ladies, and models. You should buy it now !!

図2【ワークシート】

実践3 登場人物の立場になって考え、読みを深める

『シャネルの引退と電撃復帰の真相は？』

(1) 活動内容

シャネルが1939年に突然ファッション業界から姿を消し、その後70歳になって復帰した理由を考え、発表する。

(2) 生徒の様子

引退の理由については、題材中に “Some people say she got tired of the fashion industry at that time.”と書いてあるため、その文を書き写す生徒がいた。しかし、復帰の理由については本文中で言及されていないため、シャネルの気持ちを想像して自分で考えた理由を書かざるを得ず、最終的には引退の理由についても、復帰した理由につながるよう工夫して書き直す生徒がほとんどであった。どの生徒も、これまで読んできたシャネルの生き方や、ポリシー、ファッションに対する想いを基に、彼女の気持ちになって様々な理由を考えていた。

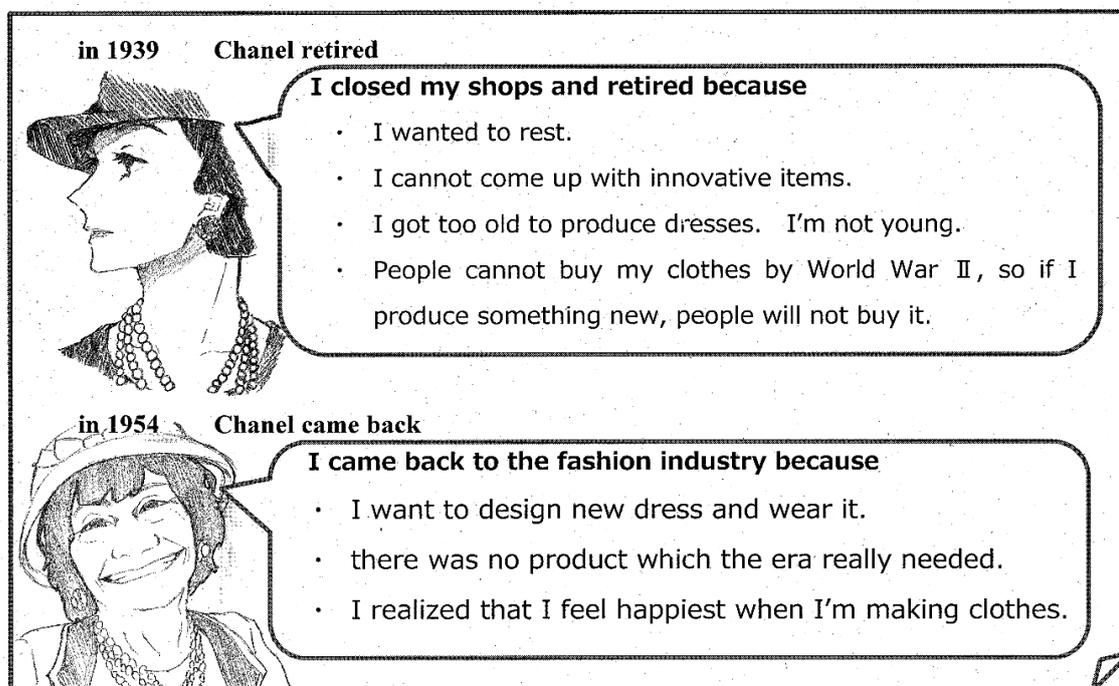


図3 【生徒の意見の一部】

実践4 題材を通して学んだことを、自分の言葉でまとめる

『Chanel's Styleをどう思う？』

(1) 活動内容

まとめの活動として、題材のタイトルでもある Chanel's Style から学んだこと、感じたことを書かせた。間違いを恐れず、学んだこと、考えたことを自由に書けるように、形式や語数の制限は設けず、制限時間20分でまとめた文を書くことを目標とした。次の時間に、グループごとに生徒たちが抽出したエッセイに対して自分の感想との共通点や相違点、良いと思った表現について話し合い、意見交換を行った。

(2) 生徒の様子

題材全体を読み返し、シャネルの「好きだから、自分が欲しいから、着たいから作る」という信念や、時代のニーズを反映した製品作り、批判に屈することなく自分らしさを通す姿などに対する自分の考え、感想を書くことができていた。書き出すまでに時間がかかる生徒は多いが、本文中の単語や表現を使ったり、これまでの自分の生き方や、物事に取り組む姿勢などに触れたりしながら、工夫して書いていた。次は生徒が書いた感想の例である。

I learned "a strong enthusiasm" can change the world. Chanel's enthusiasm is "I produce dresses I want to wear." I think Chanel's fashion wasn't embraced by many people in the world at the beginning, but she produced new items and the items were hit.

Chanel considered women's situation in those days, and she made clothes for women. It was precious and possible because Chanel was women's innovator.

- I want to be like Chanel, who works for someone.
- It is important for us not to give up when we get over sixty or seventy. Chanel told us to try again.

It is important to express an idea. If we challenge something new, we must have enthusiasm and make an effort.

5 更なる改善に向けて

「単語・文法を覚える」「英文を日本語に直す」「本文に関する closed questions」が中心の授業を見直し、対話的な学びを目指して授業実践をしてきた。はじめは自分の意見や考えを伝えたり、テーマについて話し合ったり活動に対して戸惑いを見せていた生徒であったが、事後調査の結果では、約8割の生徒が「授業を理解している」「授業に積極的に参加している」と答えている。また、英語を学習する際に大切なことに、「たくさん会話する」「意見や考えをたくさん書く」を挙げる生徒が以前の調査と比較しかなり増えていることがわかった。

(1) 成果

ア 対話を通じた表現活動の活性化

○ 実践1 読み取った情報をまとめ、他者に伝える

「他者に伝える」ということを意識しながら読むことで、伝えるべき情報は何か、筆者からのメッセージは何なのかを考えながら読むことができた。また、自分でまとめた情報を基に、読み取った情報を他者に伝える活動では、自分の思考をたどりながら、本文を再現するという、少し高度な作業を課すことになった。

流暢さや正確性には欠けたが、生徒は自分で書いた矢印を so, because, however などのつながり言葉に言い換えるといった工夫をしながら前向きに活動に取り組み、情報を伝えることができた。文と文を結び付ける接続詞を用いて表現できたことは大きな学びといえる。



○ 実践4 学んだことを自分の言葉でまとめる

題材全体のメッセージを読み取り、それに対する自分の考えや感想を書くことができた。登場人物や筆者と対話しながら何度も本文に触れたことで、自分の経験と結び付けながら感想を書いたり、印象に残ったことや今後の生活に生かしたい点などを自分の言葉で書くことができた。後日、生徒同士でお互いの感想を読み合い、感想を述べ合った。「この発想は自分にはなかった」「同じ内容でもこの表現を使うと伝わりやすいと思った」など、内容や表現についての意見が多数挙がり、対話を通しての学びがあった。また、その意見を次のライティング活動に生かし自己表現力を高めようとする意欲が見られた。

イ 対話を通じた内容理解の深化

○ 実践1 読み取った情報をまとめ、他者に伝える

読み取った情報をお互いに伝え合うことで、見落とした情報に気付いたり、異なった視点からの他者の考えを聞いたりして、内容理解をより確かなものにすることができた。その理解したことを他者に伝える過程で、平易な語や表現で言い換える生徒もいて、英語表現の理解も進んでいると言える。

○ 実践2 情報を整理してわかりやすく伝える

シャネルの製品を宣伝するという活動を通し、作り手の立場に立ってその熱意や工夫を読み取ることができた。活動はPart 3を扱ったものであったが、Part 1・2で読んだ「必要なものを作る」というシャネルの姿勢や、comfortable, functionalなどのキーワードを取り入れているグループもあり、この活動が題材全体の内容理解を深めていると感じられた。

○ 実践3 登場人物の立場になって考え、読みを深める活動

シャネルの立場に立って、突然の引退と70歳での復帰の理由を考えさせた。本文では言及していない内容ではあったが、これまで読み取ってきたシャネルのファッションに対する姿勢や時代背景などを基に、それぞれがシャネルの気持ちを推測してオリジナルの理由を書いたり伝えたりすることができた。題材のテーマでもあるシャネルの生き方を生徒がどのように理解しているかを確認することができ、生徒自身もシャネルの熱意を再確認しながら読みを深めることができた。

ウ ワークシートの変遷

筆者や登場人物が伝えたいことを自分の言葉でまとめる活動を、ワークシートを使って行ってきた。最初のうちは穴埋めなどを中心にアウトラインを確認するもの(図4)であったが、生徒の思考の軌跡が見えにくいため、段階的に自由記述の欄を増やしていき(図5)、生徒が自分でアウトラインをまとめられるワークシート(図6)へと変えていった。筋道を立ててまとめる作業は時間がかかるが、少しずつ自分なりのまとめ方を確立してきている。授業では生徒がまとめたものを使用して内容の確認などを行っているため、重要な点をわかりやすく伝えることを意識しながらまとめる生徒が増えてきている。また、このワークシートを見ると、読み違えている点にも生徒自身が気付くことができるなど、内容理解の際の大きな助けとなっており、より深い学びへ結び付いている。

段階的にワークシートに変化をつけることで、生徒が自分で感想等を記述できるようになってきている。

LANDMARK English Communication II
Lesson 1 I'm the Strongest! part 2-1

> the Personal History of Shingo Kunieda

1984	0	He was born in Tokyo. He (was) (brought) (up) in Chiba.
1993	9	He got spinal cord cancer, he became a wheelchair user.
1995	11	He started to play wheelchair tennis.
1999	15	[During his first tour abroad] He was amazed at the breathtaking moves of the players. He was thrilled by Ricky Moller the most, and thought "Cool! What a player!" He set a clear objective to play a match with Ricky Moller someday.
2004	20	He won the doubles title at the Athens Paralympics. He was ranked around (twenty) in the (two) years.
2006	22	Ahn Quinn changed his situation. What did she do? She ordered Shingo to look at himself in the mirror every morning and shout, "I'm the strongest!" Did Shingo follow her advice? → (Yes / No)

LANDMARK English Communication II
Lesson 2 Tokyo's Seven-minute Miracle part 3-1

> Reputation of Tessei

Their speedy and skillful work catches the eyes of (passengers) as well as Japanese.
→ A world-famous television channel introduced their performance to the world.

↓

Many foreign visitors come to Tokyo station to observe their performance.

Wow! Their performance is amazing!
We want to produce the same system over our countries!

↑

However
It is (easy / difficult) to do so in other countries.

> The factors behind the Tessei's success

Why does the system of Tessei work well in Japan?

→ It may be because Japan has the unique culture of cleaning.

Q What is the culture of cleaning?

A: • Habit of cleaning
• We clean public places (e.g. park benches, school) ...
• Virtue of cleaning
• We tend to keep the ground plane clean.

↓

It is likely that Japanese culture of cleaning helps the Tessei do their job quickly.

Thanks to Japanese culture, there are a little garbage, so the thing help Tessei's work.

English 単語は付く(870)
↳ Passengers tend to keep the areas around their seat clean.

図4【初期のワークシート】答えが決まっている質問・穴埋めが中心

LANDMARK English Communication II
Lesson 4 Chanel's Style part 2-1

> Chanel's product changed women's fashion

Before	After
Large wire-framed shirts with their waists laced with corsets. putting large decorated laces.	Small hats. Comfortable dresses ↳ needed no corsets. dress's material turned to jersey. "simple", "comfortable" and "useful" style

> Needs of the era

World War I

The men went to the battlefields
↳ women had to do everything themselves
↳ needed simple and functional clothes
↳ to move and work with ease!

materials for dresses became scarce.
↳ Chanel's attention turned to jersey
↳ used for men's underwear
↳ to move with ease
↳ Chanel's began producing Paris

図5【中期のワークシート】トピック・枠組みを与え、生徒がアウトラインをまとめる

LANDMARK English Communication II
Lesson 7 Letters from a Battlefield part 1&2-1

> Features of Iwoto

- 23.73 km²
- It has no rivers or pond
↳ None of waters.
- Small flat and barren island.
↳ None of mountains and trees
- It was one of the hardest-fought battlefields of World War II.

> The Battle of Iwoto

Iwoto

US X Japan

attack

Iwoto is important base that protected mainland.
If Iwoto was lost...
↳ citizens and soldiers

60000 X 20000

We can defeat Japanese troops within 5 days.
↳ However
The battle continued for over 1 month, and the number of American casualties in Iwoto was about 28,000.
↳ This is the only case in which US casualties exceed Japan casualties in W.W. II.

図6【現在のワークシート】トピックだけを与える

(2) 課題

題材の内容の理解をより深めるために、今後は教員と生徒との対話を増やし、教室全体での意見発表やアイデアの共有をしていくことも必要と感じる。そうすることでより多くの意見や考えに触れることができ、様々な視点を得ることができる。また、そういった活動を通して自己表現力も更に磨かれていく。その過程で必要となるのが、教員の発問の工夫である。生徒が疑問を持ち、探究し、ひらめきを促す、本事例実践3ような発問をすることで生徒の思考力が高まり、表面的な読解ではなく、内容理解の深化を図ることができるであろう。

また、レッスンに関連した情報を与え、生徒自らが課題を見つけてリサーチし、ペアワークやグループワークにおいて友人と考えを共有しながら新たなアイデアを作り上げられるような事後活動を充実させたい。「英語を学ぶ」授業から「英語で学ぶ」授業を展開し、英語で表現することの大切さを生徒たちに伝えていくことが大切である。

[参考文献等]

- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』（平成30年7月）
- ・田村学『深い学び』（東洋館出版社）
- ・平木裕・下山田芳子「新学習指導要領がめざす英語教育とは」（『英語情報』2018春号）
- ・百瀬美帆「中学校・高等学校の授業改善と評価のあり方」（『英語情報』2018春号）

事例3 自身の経験に基づいて思考し表現させる授業実践

単元名	Lesson 7 Political Correctness
これまでの課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は与えられた英文を読み、英文に関する問いの答えを探し出して答えることには慣れているが、英文について自分の考えをまとめ、他者と話し合う機会が少ないため表現活動自体に抵抗がある。 題材の内容に関して教科書にある情報を利用するに留まってしまい、生徒の既存の知識や経験と結び付けるための活動が足りていない。
授業改善のポイント	<ul style="list-style-type: none"> パート毎に自分の考えをまとめさせてペアワークやグループワークにより他者と情報を交換・共有する自己表現の機会を多く設ける。生徒たちが表現活動に慣れ、他者との対話自体を楽しむことができるようにする。 生徒自身の経験と実生活とのつながりを踏まえて思考する活動を取り入れる。これにより、題材を身近な事柄に置き換え、題材内容をより深く理解させる。

1 指導観

(1) 本単元について

本単元では差別的な用語や不適切な用語を避けて別の用語に言い換える「ポリティカルコレクトネス」についての文章を読む。本文中で挙げられている例を基に、海外での差別的な表現に対する反応や考え方を理解し、「ポリティカルコレクトネス」の今後の在り方について考えを深める。

(2) 生徒の実態

3学年の生徒72名に対して行った事前アンケートの結果によると、英語が「好き」と答えた生徒は65%、「やや得意」と感じている生徒は52%であった。「聞くこと」や「読むこと」が好きと感じている生徒は70%である一方、「話すこと」があまり好きではないと感じている生徒は56%で、「書くこと」があまり好きではないと感じている生徒は70%であった。授業に対して前向きな姿勢で意欲的に取り組むことができる生徒であるが、自分から情報を発信する活動の機会が少なかったために、表現活動に対して苦手意識を持っている生徒が多い。

(3) 生徒に身に付けさせる力

題材を読んで内容を理解させるだけでなく、その内容について自分の考えをペアやグループ内で伝え合わせながら考えをより深めさせたい。また、題材の情報を生徒自身の知識や経験と結び付けてより深く考えることで、題材の内容は自分と切り離されたものではなく自分の生活と密接に関係していることを実感させる。自分の意見を確立することの意義を見いだすことにより、表現活動へのより積極的な取組が期待できると考える。最終的には、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度が養われることにつながると考えている。

2 単元の指導計画及び評価計画

○単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
A1 聞き取れない箇所や未知の語句があっても、推測するなどして聞き続けようとしている。	B1 ポリティカルコレクトネスや差別についての考えやその理由を書くことができる。	C 文章の内容から、書き手の意図を推測することができる。	D ポリティカルコレクトネスや差別についての考えやその理由を伝える表現を理解している。
A2 ペアやグループで感想や意見を述べ合う活動に積極的に取り組んでいる。	B2 グループで話し合い、まとめた内容を全体に伝えることができる。		

○ 単元の指導計画

時	該当箇所	指導内容・方法	評価規準との 関わり
1	レッスンの導入	話題の導入	A1
	Part 1	新出単語・語彙の確認, Oral Introduction, 本文のアウトライン確認	C
2	Part 1	本文の内容に関する意見交換	D
3	Part 2	新出単語・語彙の確認, Oral Introduction 本文のアウトライン確認	C
4	Part 2	本文の内容に関する意見交換	B1
5	Part 3	新出単語・語彙の確認, Oral Introduction, 本文のアウトライン確認	C
6	Part 3 (実践1)	本文の内容に関する意見交換	B1
7	Part 4	新出単語・語彙の確認, Oral Introduction, 本文のアウトライン確認	C
8	Part 4	本文の内容に関する意見交換	B1
9	まとめ	本文のテーマに関する意見交換、表現活動 (準備)	A2
10	まとめ (実践2)	表現活動 (発表)	B2

3 実践の様子

実践1 本文の内容について身近な事柄に置き換えて考え、他者に伝える

(1) 本時の展開 (第6時)

段階	学習活動	活動のねらい	指導上の留意点
導入 5分	Warm-up Small talk	・生徒が差別であると感じる言動について、意見を交換する。	・発言を促し、全員が授業に関わる雰囲気づくりをする。
展開 40分	Pair Work(5mins.) Talk about his or her own experience in pair.	・差別に関する自分自身の経験についてペアで発表し合う。	・相手に伝わるように、平易な単語ではっきりと話すように促す。
	Group Work(10mins.) Tell group members his or her own experiences and pick one and talk about it more in detail.	・ペアで発表し合った内容をグループ内でもう一度発表する。 ・グループ内で発表された経験の中から一つ選び、その経験についてグループで意見を交換する。	・ペアで話し合った際の反省を踏まえて発表するよう促す。 ・他の生徒の発表を注意深く聞き、メモを取らせる。
	Preparation for a Presentation(25mins.) Put group members' thoughts together and prepare for the presentation.	・グループ内で選ばれた経験について内容をまとめて発表の準備をする。	・聞き手に伝わりやすくするために表現を工夫したりビジュアル・エイドを活用したりするよう促す。
まとめ 5分	Confirmation of the Rules in a Presentation(5mins.) Share the rules in making a presentation in class.	・プレゼンテーションをする際の留意点やルールを全体で確認し、共有する。	・話し手には視線や声の大きさなど、聞き手には発表を注意深く聞いて考えを深めることなどを確認させる。

(2) 活動内容

日本における「ポリティカルコレクトネス」について自分の考えをまとめ、ペアで伝え合う。

(3) 生徒の様子

本文を読んで、海外での「ポリティカルコレクトネス運動」の状況を読み取り、ポリティカルコレクトネスの用語の例にそれぞれ対応する日本語は何かについてグループで話し合った。辞書を使用しながら想像力を働かせて意見を出し合う様子が見られた。

海外での状況について学んだ後、日本における「ポリティカルコレクトネス」について自分の考えをペアで伝え合った。これまでの自分の経験を振り返りながら考えをまとめ、文法や語彙を気にしながら意欲的に伝えていた。

ア Round 1

ポリティカルコレクトネスの用語で行き過ぎていると思われる表現について考えさせるために極端な例を選び、それぞれ何を意味しているのかグループで話し合せて記入させた。辞書を活用しながら積極的に取り組む様子が見られた。それぞれの単語の意味から推測し意見を出し合う中で、わざわざこのような言い方をする必要はあるのか疑問に思う声も上がり、話し合いがより活発に行われていた。

イ Round 2

Round 1 で学んだポリティカルコレクトネスについて、自分の周囲の状況とリンクさせて考えさせることで、「ポリティカルコレクトネス」を身近なものとして捉え、より深く考えさせることを狙いとした。正確性についてはフィードバックが必要だが、自らの経験などを振り返りながら考えを積極的に書こうとする姿勢が見られた。また、自ら歴史背景などについて調べて自分の意見を述べる生徒もいた。

<Share your ideas!!>

○ Is "political correctness" common in Japan? Do people there talk about it in the same way as those in Western countries?

苦、黒人差別=対峙
 迫害を加えられた人々
 差別への敏感

I think "political correctness" is common in Japan.
 Because, I often hear P.C words on a daily basis,
 but old words don't.

Western countries persecuted immigration long ago.
 So, western are sensitive discrimination.

私は思う。これは日本に一般的に存在する。だから、私は P.C のワードは毎日に聞く。でも古い言葉は聞きません。西洋の国は昔から移民を迫害した。だから、西洋人は差別に敏感です。

I think that at least it isn't common around me.
 Because, I have not heard it,
 and I have not been conscious to use the words
 which means "political correctness"
 But, I may have used it in my life.
 I just have ^{not} known the words as "political correctness"

図1 【ワークシート】

実践2 実践1を踏まえて第9時にグループで取り上げた題材について考えを深め、それを他者に伝える

(1) 活動内容

自分がこれまで経験した差別についてペアで伝え合った後、グループ内でそれぞれの経験を伝え合う。その中から一人の経験を選び、それについて掘り下げて話し合った内容を発表する。

(2) 生徒の様子

あるグループでは、班員の一人が聞いたという、中学生時代の先生がイタリア旅行中に経験した店員とのやりとりの話を基に話し合い、発表した。状況をより分かりやすく伝えるために先生と店員に扮し、簡潔なやり取りでその場面を再現した寸劇を加えるなど工夫が見られた(発表1)。

また別のグループでは、校則について自分たちが差別であると感じたことについて取り上げ発表した。身近な話題を選んだことにより、活発な話し合いがされていた(発表2)。

他のグループの発表を聞いて、「自分が思っていた以上に様々な差別が身近にあり、驚いた。」という意見もあった。

(発表1)

We will start our presentation. We will tell you about racial discrimination. It is a story that I heard from my school teacher. It was when he traveled to Italy in the past. He was told “yellow monkey” at the shop and the shop clerk threw the change to him. Mr. A and B will demonstrate it.



Teacher: How much?
Clerk : It's 20 euro.
Teacher: OK. Here you are.
Clerk : Thank you.
Oh, wait.
Change! Yellow monkey!

In this way, the teacher was called “yellow monkey” and the shop clerk threw the change to him. I think that prejudice caused such a situation. Certainly, the race is different. But I think that it is good to live with consciousness that everyone is the same person. Thank you for listening.

図2 発表の様子

(発表 2)

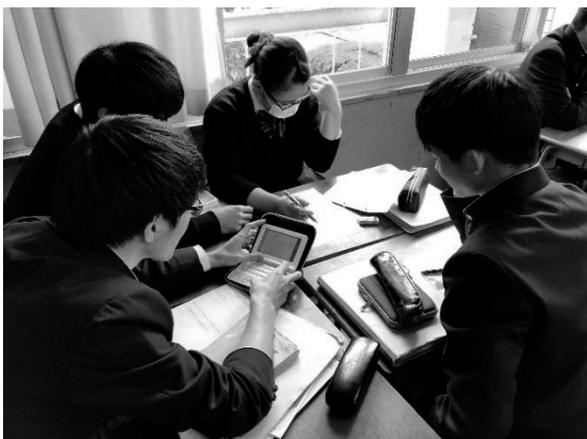


図3 話し合いの様子

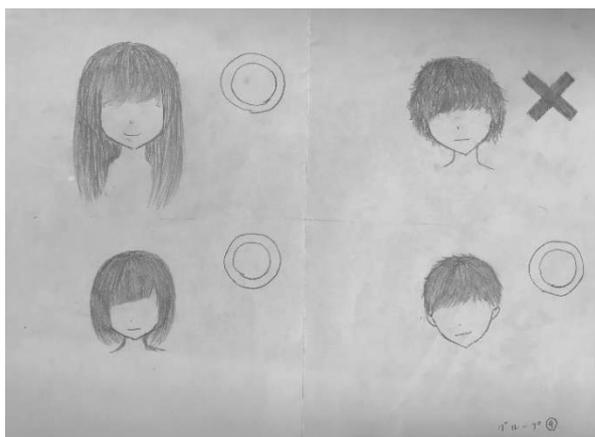


図4 発表の際に使用したポスター

3. Choose one experience and discuss it more in group.

An experience you chose.	Our high school rule. about hair style
What do you think was the cause of the discrimination?	Prejudice by adults.
How can you deal with it? (Give some advice.)	Change the ^{school} rule. about it.

Hello, everyone. We will tell you about our high school's rules about hair style. Girls have a long hair but boys don't. What is the cause of it?
We think the discrimination is caused by adults' prejudice. So we think rules are to be changed. Thank you for listening.

図5 発表原稿メモと台詞

(3) 本活動の意義

題材の内容理解で終わらず、題材を生徒の身近な話題につなげた瞬間、生徒の表情が生き生きとして、話し合いが活発になった。身近な話題になると、自分が日頃考えていた意見を表現しようとする。言いたいことがあるため、英語での表現が思いつかない場合は、自ら辞書を引き、教師や友人に質問して、積極的に学ぼうとする。また、友人と意見交換を通して、新たな見方や考え方を学ぶ。こういった活動の中で、学習に対する主体性が表れ、友人との対話が思考の助けになることを経験していく。生徒たちは、こちらの問いかけによって、自分も持っている考えを意識化することができる(図6、図7)。つまり、教師は活動における生徒への問いかけによって、生徒の知識を引き出ししていくことができるのである。

1. Have you ever been discriminated or discriminated someone?



2. Share your experiences in group. Take memo.

Name	Experiences
1.	
2.	
3.	
4.	
5.	

図6 【ワークシート】グループでの話し合いを円滑に進めるためのメモをとるために活用した

5. How did you feel about other group's story?

全てのグループの意見を聞いて人種や男女以外にも見かけが兄弟などの差別があることを知り、差別が多いことに対し驚いた。

I felt sadness, because I knew many discrimination.

I feel it is sad thing that we can't understand others's originally. I think understanding each other and considering others is very important thing.

I also feel discrimination of "you are man because you can't cooking" should be stopped.

図7 【ワークシート】発表を聞いた感想

4 更なる改善に向けて

(1) 成果

3年生は受験勉強への意識が高まり、単語や文法などの知識をより重視する傾向が強い。表現活動を敬遠しがちになっている生徒もいる。こうした状況の中、これまでに身に付けた知識や経験と単元の内容を結び付け、自分の言葉で自身の意見を表現し合うといった対話に重きを置いた授業を通して他者の考え方に触れる機会を多く設定した。他者の経験を聞いて情報を共有し、その中から一つを選んで内容を深める対話を通し、他者の異なる意見や考えに触れ、それを理解し、受け入れるとともに率直にお互いの考えを述べ合うことができた。

事後調査の結果では依然として英語学習において「単語を覚える」ことや「文法の知識」が大切であると考えている生徒が多かったが、「たくさん会話する」や「たくさん聞く」、「意見や考えをたくさん書く」が知識の定着にも有効であると気付いた生徒もみられ、本実践の効果があったようだ。英語は実際に声に出して使うことで定着することに気付いたことが大きな収穫といえる。本実践の後、生徒たちは音読やリテリングといった声に出す活動に意欲的に取り組むようになり、想像以上の良い結果が得られたと感じている。生徒たちは対話的な活動を通して、まさに主体的に英語の学習に取り組むようになった。

(2) 課題

個々の英語力、特に単語力の制限から思考を止めてしまった生徒がいたことも認めなくてはならない。言いたいことはあるが、それを英語でどのように表現すればいいのかと悩む中で、辞書を頼りに自身の意見を表現できた生徒も多いが、一方では思考をやめて、自分の語彙力に合った表現を選んだ生徒も見られた。

今回の実践では対話を重視するだけでなく、その活動の中にどういった学びがあるのかを意識した。その結果、生徒にとっては英語の表現力が上がったという実感はあるものの、題材のより深い学びに結びついたという感想は少なかった。今後は、自分の複雑な思考をより正確に他者に伝えるための英語力と内容面での質の向上を達成する授業が必要となる。英語力の向上のためには、これまでに扱ってきた表現に加えて、よりアカデミックな表現など幅広い表現方法を提示して表現活動に取り入れていくことも大切である。